教材研究ノート№2-B-4

≪学習問題≫

形当てゲームをします。

3つの質問で形を当てる

には，どのような質問を

すればよいでしょうか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・長方形，正方形，直角三角形の意味を理解し，弁別できる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・2年「正方形と長方形」で，辺の長さや直角に着目して，図形の意味や性質を考える学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・構成要素に着目して，箱の形の特徴をとらえる経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・箱づくりで，面の形を観察する学習をしている。

≪学習問題≫

(あ)

(い)

(う)

(え)

(お)

主眼

授業計画･実施記録

②見通し：立体図形の特徴は，どのように調べればよいのだろう。

 →　面の形や数，辺の長さや数，頂点の数を調べれば，どの立体か見分けることができる。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：面の形や数，辺の長さや数，頂点の数を調べて表にまとめ，立体の特徴を説明しよう。

③個人追究：構成要素の数などを調べて表にまとめ，立体の特徴を明らかにする。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「立方体と直方体に共通していることは何だろう？」

→「面の形は違うが，面，辺，頂点の数は同じ。」

④共同追究後半（思考を深める）

「(あ)と(い)には正方形，(い)と(う)には長方形があるけど，どのように聞けば区別がつくかな？」

→「正方形だけ，長方形だけと聞けば，区別できる。」

　「面の数や形，辺の数や長さ，頂点の数などを調べると，図形の特徴が分かる。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・立方体と直方体は，面，辺，頂点の数は同じ。

・構成要素の数や，面の形，辺の長さに着目すると，立体図形を見分けることができる。

⑥定着･活用問題

形当てクイズを行う。

自分が考えた質問をもとに，ペアで形当てゲームを行う。構成要素をまとめた表を見ながら，形を特定させる。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・個人追究では，一人ひとりに立体を用意できない場合は，ペアやグループで1セットの立体を，協力して調べさせてもよい。

・円柱の辺の数や側面の形については深入りせず，児童が共通して納得する形でまとめる程度でよい。

・定着の場面ではクイズを多く扱い，立体に触れる機会を設ける。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】